



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

人を育てる。

難しいテーマである。

しかし、人を育てていかなければ、次の時代も訪れないのも確かである。

子供、生徒、後輩、部下、弟子など。

それぞれに自分の意見、考え、生き方を伝える事ができる立場に立った時、先に立つ者として何をしていかなければならないのか。

答えは簡単だ。

まずは己が動く。

体が動く限り、頭で考えられる限り動き続けることだ。

人の上に立つ立場。

それは人の前を進んでいる立場にいるという事だ。

下から上を目指そうとしている者たちは、いつも前を進んでいる者たちの背中を見つめている。

すなわち、人の上に立つ立場にいる者たちこそ、輝き、憧れるくらいの格好良い背中を見せていかなければならないのだ。

どこの世界にしょぼくれた背中に人がついてくるだろうか。

堂々と胸を張るから、背中も生きてくるのだ。

己の中に誇りと正義を持ってこそ大きな自信となり、みんなに夢を見せてあげる事ができるのだ。

動き続ける。

生きているからこそ動き続けられることを忘れてはならない。

肉体はいつか減びる。

しかし、生きている間に熱いエネルギーを発し、その生き方を示していく。

肉体は減んでも、次の世代には熱いエネルギーは伝わっていくもの。

下に伝えるには表面的な言葉はいらない。

動き続けて熱いエネルギーを発する。

すなわち活力を背中ですすのだ。

椅子に踏ん反り返り、口先だけで伝えるだけでは駄目だ。

先頭に立ち、動く。

そして、己自身が自信に溢れた背中でものを語れなければならない。

簡単な言葉で甘やかすのではなく、生き方を示し気づかせるのだ。

だが、それは容易ではないだろう。

だからこそ必死の覚悟を持って、活力に溢れた生き方をし続けていこうではないか。

人を育てる。

それは己を育てる事なのだ。

平成武師道。

私達は熱く背中語る漢達の集まりである。



佐々木